

<肯定的に考えられる点>	A生徒	B教師	C学校	D地域
P①自治と協働の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活運営目標の設定</li> <li>自治への評価</li> <li>自分達の運営マネジメント力の発表の場を作る</li> <li>予算の使い道の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活でもファシリテーターとしての教師</li> <li>人事の輪番制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何のために部活があるのか？」という問い直しの場作り(生徒・教員)</li> <li>兼部、変更への寛容さ</li> <li>評価の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の技能を持つ人の情報をデータベース化</li> <li>強豪への期待をやめる</li> <li>無料、低価格のクラブ</li> <li>地域の人の協力</li> </ul>
P②学級とは異なる「居場所」の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な環境やコミュニティと関わる</li> <li>自治活動としての部活動(主体は生徒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級以外の居場所を発見させる</li> <li>強制顧問の廃止</li> <li>生徒の自治意識形成に向けた働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な機会の提供</li> <li>強制参加の廃止</li> <li>教員の自主性の尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な機会の提供</li> <li>地域の大人との交流(生徒が指導的役割を担うことも→地域の一人として認められる)</li> </ul>
P③正課教育とは異なる自己発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容を決めさせる(自主性)</li> <li>生徒の中で自分の役割をはっきりさせる</li> <li>生徒たちだけの話し合いの場</li> <li>ある程度の強制力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートに回り、強い関与はしない</li> <li>相談などの窓口としての役割</li> <li>ほめるといった言葉がけによる自己アイデンティティ向上への役割</li> <li>生徒に強制力を与える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所提供、予算(生徒がマネジメントできる工夫)</li> <li>安全管理(教師がいない状況下をつくるシステムづくり)</li> <li>生徒が学校に相談できる環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者がサポートしたくなる場の提供(ex.参観)</li> <li>助成金、物資、客観的な意見提供</li> <li>地域のイベントへの参加を提供</li> </ul>
P④文化的な市民としての発達機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な活動(卒業後も含めて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己発見、発達のモデルとしての教師</li> <li>生徒に対する学外の活動への評価→部活の中に閉じ込めない</li> <li>生徒を燃え尽きさせない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の視点を重視する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受け皿の用意(指導者、支援者の確保)</li> </ul>
P⑤道徳性や社会性の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主運営の中で人とのつながりや助け合いの心を学ぶ機会とする</li> <li>そのための目標やルールを自分たちで作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人として生徒が成長できるよう、生徒の自主運営をサポートする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活の実績を学校の宣伝道具には使用しない</li> <li>学校はあくまでも生徒の活動を支える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見守る</li> <li>関心を持つ</li> <li>聴く</li> </ul>
P⑥成功体験(勝利)による自己効力感の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>後輩に伝えていく(地域イベント等での活躍)</li> <li>生徒同士の連帯感</li> <li>自身の役割を全うする達成感</li> <li>生徒同士で活動の成果発表の場を大会以外にも設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な目標の設定</li> <li>生徒の役割分担</li> <li>活動自体の楽しさを得られるように</li> <li>勝利以外の成功体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成功体験を勝利以外にも拡大する</li> <li>広報、ホームページによる学校の宣伝</li> <li>部活動と地域の接続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントへの生徒の参加</li> <li>地域での広報、応援</li> <li>報償、経済支援</li> <li>成功体験の多様なバリエーションを認識する</li> </ul>
P⑦体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>動機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援</li> <li>指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織としての支援、指導</li> <li>施設、環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体からの支援</li> <li>施設、環境の整備</li> </ul>
P⑧大学進学への回路	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部員は、社会人になってからのキャリア構成も意識した学校生活を送っていく</li> <li>文化部員は、進学に向けて部活を頑張る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の保障</li> <li>受験システム・ストラテジーの理解と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の整備</li> <li>学力保障システム構築</li> <li>大学卒業後の進路を見据えた指導に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活でつちかったスキルを活かせる職場・キャリアを紹介する(例・軽音楽部のスキルをいかせる仕事をリストしたコミュニティ・ペーパー)</li> <li>地域のサッカークラブの運営スタッフのインターン)</li> </ul>

<否定的に考えられる点>	A生徒	B教師	C学校	D地域
N①封建制の正当化	・ブラック部活顧問の逆評定 ・学校外とのつながり強化(インカレ)	・声掛け ・生徒に権限委譲	・部活強制ではないと学校側が説明 ・地域クラブへの選択も可能と説明	・地域クラブの運営強化
N②共同体による抑圧(一つ目と関係して)	・大人の話さ鵜呑みにしない ・部活欠席を恐れない	・他の部の顧問に活動日数、時間を増やすように圧力をかけない	・生徒と教員に部活加入を強制しない ・連盟への参加を強制しない ・部活を学校から切り離し、連盟を廃止する ・行事に安易に吹奏楽部をかり出さない	・部活を地域のイベントに動員するのをやめる ・指導員などの受け皿を作る ・生徒にとってよくない(体を壊すような)部活の練習を美化した報道をしない
N③「強い=偉い/良い」という認識の形成	・一定成績以上の確保 ・部活別カースト解消	・推薦で取ってきた生徒の面倒をみる ・勝利以外の喜びを見つける	・人数による部費の平等な配分 ・部活成績による入試を減らす ・学校が持ち上げすぎない	・必要以上に持ち上げない ex)駅でのたれ幕 モデルケースの入れ替え ex)部活コンサル
N④暴力の文化の伝達機会	・学校別の生徒(部長など)交流会 ・相談機関を知る	・接し方 ・コミュニケーションのとり方 ・生徒指導観を変える	・「指導ありき」の体制を改める ・相談機関の充実	・相談窓口 ・社会の価値観 ・啓蒙
N⑤「精神論」の跋扈(ばっこ)	・批判的精神を持つ ・意思表示を明確にする	・「がんばれ」「努力」を言わない ・”顧問”に徹する	・部活顧問を業務として求めない ・専門的知識を持った指導を求めない/しない ・「生徒のため」を言い訳にしない	・外部コーチ、保護者など外部の目を入れる ・サークル活動の活性化
N⑥他の体験をする時間の喪失あるいは著しい減少	・自分が本来やりたいことを見つける	・教師自身が色々な体験をし、語れるように。そのために活動を見直し、休養日を!	・学級本来の目的を見直し、本来自由な放課後に干渉しない	・部活以外の価値観を高め努力する! ・地域、学校でイベント
特活的手法(学校・体験の場)				
N⑦ジェンダー再生産の機能	・自分の部活動モデル	・意見しない生徒に学ぶ	・伝統を乗り越える	・啓蒙
ポスト昭和のシティズンシップを乗り越える				

この部活動改革マップは日本シティズンシップ教育フォーラム(J-CEF)と学習院大学長沼研究室が共同で開発、以下の3回の講座等の参加者による制作です

- (1) J-CEF スタディ・スタヂオKOBÉ vol.33「シティズンシップ教育から『部活動』を考えてみる」2018年6月20日(ファシリテーター:川中大輔)
- (2) J-CEF シティズンシップ教育人材養成 連続講座第2回「学校とシティズンシップ教育 ~部活動から考えよう~」2018年9月23日(ファシリテーター:古野香織)
- (3) 学習院大学長沼研究室 第4回部活動のあり方を考えるミニ集会「部活動改革マップを完成させよう」2018年12月16日(ファシリテーター:由井一成)

- (1) でシティズンシップ教育から見た部活動の肯定的な面と否定的な面を出し合い(計15点)、
- (2) でそれらを解決するためにA B C Dの各々は何をすべきかを検討し、(3) で残りの項目を全て埋め完成させた